

平成 24 年度

第 4 回

埋蔵文化財展示室更新検討委員会

議 事 録  
(要 旨)

実施日 平成 25 年 3 月 6 日 (水)

実施場所 札幌市役所本庁舎 8 階 1 号会議室

## 平成 24 年度 第 4 回埋蔵文化財展示室更新検討委員会 会議要旨

<<会議概要>> \* \* \* \* \*

### 1. 開催日時・場所

平成 25 年 3 月 6 日（水）18:00～20:00（公開）

札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 札幌市役所本庁舎 8 階 1 号会議室

### 2. 出席委員氏名（五十音順、敬称略）

阿部一司、右代啓視、川名広文、越田賢一郎、小杉 康、古原敏弘、平間吉春、深澤百合子

### 3. 事務局氏名

文化部長	杉本 雅章
文化財課長	本間 敬規
埋蔵文化財係長	仙庭 伸久
埋蔵文化財普及啓発担当係長	藤井 誠二
埋蔵文化財係	石井 淳
乃村工藝社	福田 良一、木野 聡子

### 4. 傍聴人

0 名

### 5. 会議次第

(1) 開 会

(2) 事務局説明

(3) 議 題

・展示室更新基本計画のとりまとめ

(4) 閉 会

### 6. 会議資料

・埋蔵文化財展示室更新基本計画案資料 1～3

<<会議要旨>> \* \* \* \* \*

## 1. 開 会

### 事務局説明

会議は、札幌市情報公開条例の趣旨に鑑み、公開で開催。また、会議要旨は、札幌市文化財保護審議会の公開に関する取扱要領に準じて取扱うこととし、要旨をとりまとめ次第、ホームページに公開し、併せて埋蔵文化財センター事務室に備え付けることを確認。

第4回検討委員会開催にあたり、加藤委員より、欠席の旨、連絡を受けたことについて報告。

## 2. 議 事

### 議題 展示室更新基本計画のとりまとめ

座 長：それでは、第4回の委員会を始めたいと思います。皆様のご協力と事務局のご尽力で、ようやく第4回までこぎ着けることができました。あらためてお礼申し上げます。本日、もう一度、皆様のご意見を出していただいて、何とか形にしたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。まず、皆さんにお集まりいただくのは本日が最後ですので、これまでで言い足りないことや、前回欠席されている方には、ぜひご意見を述べていただければと思います。それから、欠席の委員からもコメントが来ておりますので、この議論の中でコメントを読みながら、議論を進めていきたいと思っております。それでは、早速、議事へ入らせていただきたいと思います。まずは事務局の方から、基本計画の最終案につきましてご説明いただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局：それでは、事務局からご説明させていただきます。本日の資料は、会議レジュメの他に、資料1～3を付けてございます。資料に関しましては、資料2の1ページ目の展示資料リスト案について、差し替えをお願いいたします。お手元に差し替え資料をご用意してございます。それから、資料3の遺跡一覧表につきましても差し替えをお願いいたします。こちらは、資料4と書かれた表が差し替え資料になります。

それでは、資料1に基づきましてご説明をさせていただきます。前回、基本計画の文章編と図面編と分けてお示ししましたが、本資料が最終的な形になります。この中で、前回ご指摘を受けた部分も含めて、修正した部分を中心に説明していきたいと思っております。資料1の表紙をめくりまして、目次の第1～4章までは基本方針の内容を再度整理したところになります。第5章で基本計画について整理している形になります。主な修正箇所は、第1章、1ページの一歩下、基本計画とリニューアルという部分を追加しています。それから、4ページ目の検討経過に、平成24年度の検討委員会についての経過を記載してございます。第5章以降で見えていきますと、1の展示計画の考え方では、10ページの④通史による体系展示という部分、前回、時代と文化ということについてご指摘をいただきましたが、今回は統一して、「文化」という言葉で整理いたしました。旧石器から擦文までは文化、アイヌに関してはアイヌ文化期という言葉を使いたいということでお示しさせていただいております。それから、11ページ、2の展示構成のポイントでは、②の文章の表現を修正しまして、「空間的・時間的な概要を把握してもらい、「札幌」の遺跡を知るための入口へ導きます」としてございます。12ページは、計画平面図とイメージパースの図を掲載してございます。それから、13ページ目、3の情報計画で、前回、④と①～③との表現に統一性がないのご指摘いただきましたので、4番目を「あたらしく」という表題にして、文章も修正いたしまし

た。読み上げますと、「展示に最新の見地が頻繁に加えられ、いつ訪れても目新しく、学ぶことが楽しくなるデザインを取り入れます」といたしました。イラストは、展示グラフィックイメージになります。最後は、14ページ目、4の運営計画ですが、今回は、ここで言うところの②番と③番をお示ししていたところですが、対象となる利用者についても言及しておいた方が良くのご指摘をいただきましたので、①番に「市民及び国内外から訪れる観光客など、多様な利用者の関心に応え、札幌の埋蔵文化財情報を発信していきます」という一文をつけ加え、①から③の構成としました。

引き続きまして、資料2を見ていきたいと思えます。最初の展示構成リスト(案)では、細かい文言ですとか展示資料の内容について幾つか修正をしているのですが、肝心な部分としては、左から2番目の展示コーナーの列を主に修正しています。展示コーナーの左側の列につきましては、前回ご指摘があった時代区分で、時代という表現を時期区分として文化というような表現に修正してございます。アイヌ文化期につきまして、先ほども出ましたが、アイヌ文化というものと区別する意味合いで「アイヌ文化期」という名称を使用したいというふうな考えでございます。この点につきましては議論のあるところかと思えますが、基本的には本委員会でのご意見、それから北海道教育委員会、北海道立埋蔵文化財センター、北海道開拓記念館などの動向も含めて参考にさせていただいているということになります。その右の列に関しましては、札幌の特徴を盛り込んだ方が良くという指摘もございましたため、各時期について幾つかの案を追加しております。個別には読み上げませんので、内容を確認いただければと思います。以上が修正箇所になります。

なお、前回お示しさせていただいたグラフィックに関しましては、この委員会の中で内容を決めるというより、今後、設計を進めていく段階で詰めていくこととなりますので、その際に個別に相談させていただくことになろうかと考えてございますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

座長：どうもありがとうございました。それでは、文化の問題など前回もご意見が出ておりましたが、まずは全体的なご意見を伺いたいと思えます。

委員：基本計画の13ページで新しく加えたという④ですが、前回の指摘を受けて「あたらしく」にしたということですが、文言の方で、「展示に最新の見地が頻繁に加えられる」の「頻繁に」というのがちょっと馴染まないというか、適宜とか、他に言い方がないでしょうか。しつこく書いているなというののもちょっと馴染まないような気がします。

座長：そうですね。あまり頻繁というと、しょっちゅう変わるのかという感じになるかも知れませんね。何か良い言葉はありますか。「最新の見地を取り入れて、いつ訪れても目新しく、学ぶことが楽しくなるデザインを取り入れます」くらいでいかがですかね。1番のところの「情報の階層を明確化し」というのはどういう意味でしょうか。今、ちょっと読んで気がついたのですけれども。小学生までわかる必要は全くないと思うのですが、高校卒業程度の方がわかる話で。

委員：展示の手法的に、例えば可変性というのを加えた訳ですよ、今回の展示では。ですので、展示に最新の知見など可変性を加えとか、何か可変的なことを明確にした方が良く感じますが。情報なのでしょうかね。「展示に可変性を加え」ということで良いのかなという感じがするのですけれども。後で、いつ訪れても目新しく学ぶことが楽しくなるデザインを取り入れていますということで。いつも変わるよということなのですよ。

座長：今のところは、展示手法のところには可変性の高い展示手法を取り入れますと。ここでは、いわゆる情報を新しくするという意味になりますね。事務局としては、この情報計画というの

は、展示物も、展示のハード面も含めてという考えということでしょうか。

事務局：情報計画のところで言いたいのは、基本的にグラフィックの展示手法ということになります  
が、可変展示に関しての表現はご指摘のとおりだと思いますので、再度、文言の整理を  
したいと思います。

座 長：最新の見地を取り入れるということと、その表現、常に新しく内容を変えていく  
ということが盛り込まれれば中身としては大丈夫ですね。

委 員：大丈夫だと思いますけれどもね。ただ、見地というのが中々捉えづらいので。要するに埋蔵  
文化財センターで発掘した色々な情報を、その都度伝えますよということなのですよ。

座 長：毎年出てきたもの、新しくわかったことなども加えるということですよ。その点、先ほど  
聞きました1番の「情報の階層を明確化し」という言葉と今のあたりを、もう少しわかりや  
すい言葉にした方が良く思うのですがね。ちょっと何か抽象的過ぎて。ですから、新しい  
発掘知見を次々に加えてとか、わかり次第加える、もう少し具体例的なものが入っても良い  
のかなという気がします。

事務局：3番の①の「情報の階層を明確化し」というのは、これはグラフィックのことを意味してい  
たのですけれども、最初に大きなタイトルがあって、次にコーナータイトル、それから大き  
な説明があってというような意味合いですが、わかりやすくと言いながら難しい言葉を使っ  
てしまっているので修正したいと思います。

座 長：そういう気がします。新しいところに変えるということも含まれれば、大体意味が通じるか  
と思います。他の委員の皆さん、この部分はいかがでしょう。

委 員：11ページの展示構成のポイントというところで、②の文章の最後の部分なのですが、  
「「札幌」の遺跡を知るための入口へ導きます」ということなのですから、体系的な展  
示を試みているということもあるので、遺跡を知るだけではなくて、先史文化を知るとか、  
遺跡や歴史を知るとか、そういう言葉に置き換えた方がわかりやすいのかなという感じがし  
ます。

座 長：「「札幌」の遺跡を知るための入口へ導きます」のところを、事務局で趣旨を説明してい  
ただけですか。

事務局：実際に展示室に入ってきたときに、前段の概要的なものを把握してもらう部分が導入で、よ  
り深く入っていくための流れという意味合いで「入口」という言葉を使っています。

委 員：そうなのだけれども、体系的な展示がメインになる訳ですよ。ですので、遺跡だけとい  
うのはあまりにも抽象的過ぎるかなと思います。先史文化とか、遺跡や歴史ぐらいいしておく  
とかですね。ずっと今まで議論してきた中では、考古学の文化とか、新しくアイヌの展示も  
入れるということなので。

委 員：埋蔵文化財そのままで良いのではないですか。②のタイトルにもなっている札幌の埋蔵文  
化財に絞って、文化財ということ。

委 員：全体の趣旨は、今、言われたようなことだと思うのですが、歴史への入口ですよ。な  
ただ、ここは2のところは札幌の埋蔵文化財となっているので、あえてここを遺跡にしたの  
かなと読んでいたのですけれども。趣旨としては、その遺跡をとおして歴史をとということな  
のでしょうけれども。だから、表現として、ここでどれを使うのが適切かという問題かと思  
います。

座 長：意外と良い言葉はないのかなという気がして。

委 員：難しいですね。

座 長：何々をとおして何かを学んでもらうということになりますよね。

委員：札幌の過去を。

委員：あえて「札幌」とした理由は多分、この漢字を使う以前のというような意味合いだと思うのですけれども、ここを平仮名で「さっぽろ」とするのはいかがでしょうか。平仮名を振るとか。この漢字が登場するのは、明治になってからだと思うのですけれども、それ以前から「さっぽろ」という地名があるということは、いろいろな資料で知られていることなので。多分、鉤括弧をつけたのはそのような意味合いではないかと思うのですけれども。

座長：私も良い言葉がうまく浮かばないのですけれども。これをあえて書けば、何か意味がとられますよね、今言ったようにね。平仮名にしても、括弧でくくっても。そこをどういう意味で読んでもらおうかという意図だと思うのですが。単に市内でも良いのかなという気もしますけれどもね。

委員：この文章、最初に札幌市という言葉がありますから市内で良いのかなとも。一般の人もわかりやすい表現なら、市内の方が良いのかなという気もしますね。

座長：平仮名にして「さっぽろ」というと、今度はまた何なのだという説明をしなければいけないと思うのですよ。ですから、かえって括弧をつけない方が良いのではないのでしょうか。

委員：括弧付きの言葉というのは特別な意味が付くという、我々論文を書く人間には常套手段ですけれども、一般の方は、突然札幌に括弧を付けて書いてしまうと、わかりづらいという面もあるかもしれないですね。

座長：ここは無理に札幌というのを、新しく表現しなくても良いと思いますがいかがですか。これを逆にとってしまうという可能性もありますので。

委員：時々鶴川も平仮名を使っていますし、最近は平仮名を使うのが各所で出てきているので、扱うのは開拓史以前ということで、平仮名にすると、何かびったりというような感じはいつも持っていたのですけれどもね。ただ、誤解を生む可能性もあるし、説明をしなければいけないということもあるので、こういう文章では。両方とも誤解は生むのですけれども。

委員：一つ、前はこちらの文章でも気にならなかったのですが、こういうふうに文章が並ぶと、「札幌市」という単語があちこちに出てきていて、随分札幌市が目立つというか、そんなに無くても良いのかなという気もするぐらいですね。市内でわかりますので、あらためて「札幌市」というのはいらないのではないのでしょうかね。

座長：これは札幌埋蔵文化財センターの基本方針・計画なので、あまり札幌を繰り返す必要はないかと思います。ですから、全体的に文言整理をしてもらうということで。あと、何かございますか。無ければ、ここで欠席されている委員からのご意見があるので、少しそれを見ていただきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。座長宛てに書面でのコメントをいただいていますので、これを皆さんと見ていきたいと思っています。コメントとして六つに分かれていますので、1番から簡単にまとめながら皆様のご意見を伺っていきたくと思っています。

まず、1番は、「埋蔵文化財という土の中に埋まっている文化財の特質を考慮した展示手法。そのために、展示してある遺跡がどこにあるのかということを知るようにして欲しい」ということです。ですから、札幌全体の遺跡地図は展示されると思うのですけれども、ここでは、遺物や遺跡の展示ごとにあつたら良いのではないかという意見かという気がしますし、もうひとつは、「GISやグーグルマップを活用したアイテム」、これはちょっと大変になるのですけれども、これは体験コーナーなどでそういったものを、札幌の遺跡、自分の住んでいるところに遺跡が無いか調べてみようとか、そのような形でこれを応用できるような気がいたします。これは私の意見なのですけれども。それから、「この中での遺跡が身近な存在であること、地形的特徴では地形の変遷・・・」、こら辺は恐らく、札幌市の発掘

の中でわかったことが出てくるのだらうと思います。それから、「市域内の文化遺産の保存・活用、文化遺産の共存」これなどは遺跡公園と関連すると思いますし、それから、ホテルの窓から発掘現場が見えるという新聞記事が昔載ったことがありました。以前に、東京都庁へ行ったときに、都庁の上から遺跡の発掘現場が見えまして、ああ、こういった見せ方もあるのではないかと思います。ですから、今、発掘現場は塀で囲っていますけれども、上からだったら困りませんので、今調査を行っていますよということがPRになるかも知れません。これは、まさに情報の出し方だと思います。私の感想を先に言ってしまいましたが、1番の関係で何かご意見がある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

それでは、また戻っても結構ですので、2番にいきたいと思います。解説、外国語表記についてということで、英語の表記をするということが事務局から出されています。この中では、「物を中心とした展示で、来場者に資料の魅力をアピールすることは賛同できる。詳細な解説については紙媒体のものを用意するということであるが、コーナーごとにファイルに入れて、その資料についての解説、説明ボードに含みきれない情報やセンター職員による資料解説などを備えると良いと思う」、これなんかも考えておられる中に入っていると理解しておりますが。また、「国内外の博物館施設では、そのような解説ファイルをコーナーごとに壁のファイルボックスにつなげており、資料に深く関心を持つ来館者が利用している」、これは、私としては、事務局の方で十分理解されている範囲だと考えております。委員の皆さん方、よろしいですよ。それから、外国語ですが、「札幌市の国際交流戦略を反映させたものとして、中国語、韓国語、ロシア語を用意するのが望ましいと思われる」、これは一度委員会の中でも議論になりまして、ひとまず英語だけということになっていたのですが、何か他のご意見はございますか。これは、外国語表記をするという表現で出ていますけれども、実際に、これからまた、中国との交流も多くなって、多くの方が見るとかになれば、また変えていけるものだと思いますし、特に何と何を出さなければいけないということはないと思います。今後はまた、タイだとか、他の国の方なども増えてくると思いますし、それなりの対応ということでこのあたりで良いかと思いますがどうでしょうか。

委員：北海道開拓記念館は英語だけですか。

委員：いや、ロシア語、中国語、韓国語も。解説としてはですよ。

委員：パネルに出ているのですか。

委員：パネルは英語だけです。

委員：英語ですよ。英語だけで良いのではないですか。

委員：考え方だと思うのですよね。何でもあれば良いというものではないので。パネルではなくて紙ベースで用意してあげるとするのが親切ですよ。

座長：それから、「iPadやiPodを利用した音声ガイドダンス」ということなのですけども、これも、今後の課題ということだったと思います。

委員：これは、多言語に対応するということですよ。ですので、例えばiPadとか、そういう中で、データだけを、音声でも文字データでももらえれば、それを見ながら見学できるということを言っているのだと思うのですけれども、そこら辺は、予算との兼ね合いもあるでしょうけども。やりたいと思いますけれども、できないところはありますよね。

座長：これはもう、また予算を付けてやっても良いと思いますし、今度は、先ほどの遺跡公園の話とも関わってきて、あちらにあってこちらに無いとかになっても、また難しい問題になってくると思うので、そこら辺で検討していただければ良いかと思いますが、よろしいでしょうか。それから、展示パネルのタイトルを、「できればアイヌ語の表記が欲しいところであ

る」というところの意味がちょっとわからないのですが、これは、全部の展示パネルをアイヌ語で書けということなのでしょうかね。それで、その後、「アイヌ文化期の資料の展示については、アイヌ語で表記できる資料名はアイヌ語の表記を併用すべきと思います」というがあるので、ちょっと意味が、私にはとれないのですが、どういうふうに皆さんは読まれるでしょうか。

委員：ここで、今のところは「検討委員会の最初に意見として申し上げた」と書いてある、これは何なのでしょう。このときに「他の委員からは慎重な意見も提示された」とありますよね。これ、何をこのときに言ったのかな。わかりますか。

座長：最初の議事録はありますか。去年の最初ですよ、これは。

委員：タイトル全体をどうしようかアイヌ語をと、私も、それはアイヌに関連するものはアイヌの方が良いと思うのだけれども、そこまでは・・・。

委員：現代の日本語に即応したアイヌ語って、そこまで十分使われている訳ではないので、完全に造語しなければならないのですよね。それが良いか悪いかというのは・・・。

委員：地名とか、アイヌの物とか、文化というのならわかるけれども、タイトルまで・・・。

委員：時代区分の名称までは無理にというのはある。

委員：縄文文化はどういうふうにしてアイヌ語で。

座長：縄文文化はそのままになりますよね、どうしても。

委員：だから、その辺はもう、外国語という・・・。

座長：ローマ字表記するのか、何表記するのかという問題も当然出てきますよね。

委員：ちょっとこれは難し過ぎるかなという。

座長：もし地名などではっきりアイヌ語の地名があるとか、それから、アイヌ文化期の遺物名とかは、例えば鉄鍋といったときに、アイヌ語ではこう言うというのを付けられれば良いかというのは、これは前にも出ていたと思うのですけれども。ただ、方言があつて難しく、それをどこで使うか。

委員：だから、本末転倒的だろうというものもあるし、何か違うみたいなところもあるので、その辺はちょっと一概に全部アイヌ語を付けられるかどうかというのは、それぞれに。

座長：札幌市のアイヌ文化交流センターで使っている言語、表記というのは、あれは札幌市の表記という形になっているのですか。

委員：あそこは、基本的には石狩方言みたいなことを、北海道立アイヌ民族文化研究センターにも聞いたし、そういうことはしました。

座長：どうでしょうかね。これはやっぱり取り入れていって良いのかなという気もするのですが、他のご意見はいかがですか。もう、日本語名だけにしてしまった方が良いのではないかとかという意見もあると思うのです、当然のことながら。前に、本州のものばかり展示されることになる。漆器もそうだし、鉄鍋もそうだし、色々な、鉄の道具なんかも。そうすると、それが、アイヌの人たちが自分たちのものとして使っていたのだというイメージを出すためには、私は何かここでアイヌ語表記みたいなものがあつた方が、自分たちのものにしたのだなという受けとめ方ができるかなという気はするのですけれどもね。説明だけで済ませても良いとは思いますが、決してもとの役割がそのまま来たものではないと。日本刀だってそうでしょうし、鉄鍋は本来の役割があるけれども、それに付加された役割がやはりあると思いますので、そういったものが解説には必要だと思います。それを、アイヌ語表記というのが可能なかどうかという問題に絞られてくるのではないかなという気がするのですけれどもね。

- 委員：埋蔵文化財とその名前がつく兼ね合いをどうするかということを考えていただかないと、埋蔵文化財で出てきたものを見て、もうこの名前がついているとかというのを、もし見に来た人が単純にそれを理解してしまうと、それはあまり良くないかと考えるのですけれども。アイヌ語の表記はあった方が私は良いと思うのですけれども、この施設が埋蔵文化財展示室ということはどう捉えるかということ考えた上で、名前をどう付けるかということ考えた方がよろしいのではないかと思いますけれども。
- 委員：私もそう思います。
- 委員：考古ですから、何々型土器などという表記をする訳ですよ、普通のものに関しても。
- 座長：わかります。
- 委員：難しいですね。
- 委員：何らかのアイヌ文化での使用方法だとか、そういうことはちゃんと説明すべきだと思いますけれども、どの辺でうまく兼ね合いをつけるかという時代性の問題もありますから。
- 座長：そこが難しいですよ。いつもこの辺の展示のときに問題になるのですけれども、出てきたもの、それとアイヌ文化として知られているものとがイコールなのかという問題がいつも出てくる。だから、本当に丁寧にやれば、鍋が出てきたら、鍋を使っている絵だとか、これは江戸時代から明治ぐらいには「シュ」と呼ばれているとか、そういうような言い方の説明は可能かなと思うのです。それから、小札なんかは1点1点は出てこないでしょうし。ですから、代表的な漆器だとか鉄鍋だとかは、現代に繋がっているアイヌ文化ではこういうふうに使われ、こう使われていますとか、そういう解説が欲しいという気がします。遺物として扱っているものとアイヌ文化へ結びつけるものと、そこは解説で補うと。ですから、鉄鍋のタイトルに入れるのはどうかということであれば、その横にアイヌ文化の家の代表的な絵などを置いて、こんなふうに使われていたと。そこには片仮名で「シュ」というような表記があるとか、そんなような解説ぐらいかなという気もしますが、どうでしょうか。
- 委員：ただ、それは近世とか新しい時代のもので、例えばそれより古い古代のものと比較する場合、それが本当に正しいかどうかということも色々出てくると思うのですよ。
- 座長：だから、それはアイヌ文化期としたところの展示だけに使えばどうですか。まさか土器をアイヌ語で・・・。
- 委員：そうではなくて、アイヌの古いところも出ていますよね。中世初頭のものとか、古代か中世かわからないような。そこら辺も微妙なところがあるので、それを近世で補うとかは、違うかなというふうに思いますけれども。
- 座長：今のところそれしかできないのではないかなという気もしますよね。
- 委員：逆に、そういう問題があるのだということを提示したらどうですか。ここは埋蔵文化財で・・・。
- 委員：いや、そうになってしまうと博物館なのです。ここは埋蔵文化財センターが議論しているのだと思うので。だから、そういうところまでやってしまうと、今のこれがだんだんと、もうちょっと細かく展示も見ていかなければならないだろうし。
- 委員：では、例えとして、アイヌ文化期のところはこういう名前があるとか、何かそういう形ですかね。そうでなかったら、全然出せないというか、余計なものは名前としては出さない方が。
- 委員：それは紙媒体で補うとか。要は大量にアイヌの資料が出て、それで札幌市としてはこういうふうに変えていくのだというものがあれば良いのですけれども、大量に出ている訳ではないと思うのです。そこのところをどういうふうにかだと思えるかだと思えるのですけれども。

座長：そうですね。ちょうど両論が出ているのですけれども、他にはいかがでしょうか。

委員：アイヌ文化期の展示についても、今言っていることを後の方で触れている部分があるので、これ以外の話をする、当然、このところをやらないと、それぞれのご意見があるとは思いますが、アイヌ文化期については、当然、アイヌ語の表記ができるのであれば、これから、いつできるかはちょっとわかりませんが、国の博物館も白老にできると。もちろん、既存の北海道開拓記念館や、色々なところでアイヌ展示というのがある訳ですから、当然、それと整合性がとれていかなければいけないと思います。

委員：そのとおりですね。要するに、踏み込んでやるか踏み込まないかということですね。

座長：今回、アイヌ文化期の資料を新しく出すということでまず一步踏み込んだ訳ですから、あとは札幌市としてどこまで踏み込めるかということで考えているところなのですけれども。

委員：量的にはそんなにないのですよね。

座長：これは、後でスライドをお見せいただけるということですので、そこで検討できると思います。今は2案併記という形で、ここはとりあえず置いておいて、他のところを見たいと思います。3番に「近隣の施設への案内情報」、これは、まさにここに書いてあるようなことを体験コーナーあたりで資料を置いていくということですので、これはよろしいかと思いません。それから、4番「ハンズオン」、ここでは、ただ無人のコーナーに行くのではなくて、スタッフが対応するという。これもある程度考えられておられるようですので、この部分は良いかと思いません。それから5番です。この部分で「アイヌ文化期」の使用が一番良いのだろうと。これについては前回色々出まして、今回のように変わっておりますけれども、こちら辺、何かもう少し突っ込んだ議論が必要だというような話はございますか。前回の各委員の皆さんから、縄文時代から文化に変えて、アイヌ文化期はアイヌ文化期という・・・。

委員：質問なのですけれども、この「期」が、アイヌ文化期だけ付いた理由を説明していただけますか。

事務局：簡単に言えば、現代で言うアイヌ文化との区別を付けるという意味合いです。

委員：現代ではないということですか。今の説明で「期」がつけば現代と区別するということは、一般の人にはわかるのでしょうか。

事務局：考古学でアイヌ文化と言ってしまうと、誤解と混乱を招くと思うのです。そこは説明が必要かとは思っております。

委員：では、文化期の意味は、現代とは違うから「期」が付いているのだということをごきちんと説明して「アイヌ文化期」と付けるというふうに言ってくださるということですね。

委員：考古学ではいつからいつまでをアイヌ文化期としていますよということだけですね。

事務局：そうですね。

座長：アイヌ文化としてしまうと、近世以降がアイヌ文化は無い形になってしまいますよね。

委員：現在も入ってしまいますからね。

座長：現在までアイヌ文化は生きているのだという前提が必要だと思いますので、それで括弧付きの「期」という意味に区別しておいた方が良いということだと思っております。アイヌ文化の形成時期であるということをはっきり解説することが大事だと思っております。この中で、アイヌ語の表記が入る意味というのを。どうでしょう、この辺のところでは何かご意見ございますか。大体、中身としては反映されているとは思いますが、この場で何か特別に伝えておきたいことがございましたら委員の方々からご意見を。この後の4番、5番は、展示グラフィックの案ですので、これを具体的にどうこうということではないのですが、ひとつ委員意見として読んでおいていただきたいと思います。この中で、アイヌ民族

という、これの定義なんかがありますけれども、今回は、ここまでは踏み込む必要はないの  
だろうと思うのですね。あくまでも考古資料から見たアイヌ文化、そしてアイヌ文化期とい  
う意味で。前に示された展示グラフィック案などについては、もし案ができましたら各委員  
にちょっと送っていただいた方が良いのかなど。個別でも結構ですので、委員会ではないに  
しても、前回もかなり色々な意見が出ましたし、ある程度意見を反映していただければと  
思っております。私たちの役割は、ここまでの細かいところまでは触れる部分ではないのだ  
と思うのですが、やはり気になる部分もありますので、できましたらこういうふうになりま  
すということで、意見を聞かせていただければと思います。それから、チノミシリとかモイ  
ワとか、そういう名称の問題も当然出てくるだろうとは思いますが、埋蔵文化財から  
は逸脱してしまうと思うので、何か機会があれば、そういったモイワとか、そこから見え  
るという遺跡の配置とか、そのようなことがもし説明できれば良いのだと思います。そこま  
で今回議論していますと大変なことになってしまうので。

委員：というか、趣旨が違うのではないですか。

委員：これは、やはりピリカコタンという施設があるので、そこでしっかりやっていただければ良  
いことだと思いますけれども。

委員：ここは埋蔵文化財センターなので、そちらをやはり重点に。

座長：前回のグラフィック案で示されたので、こういう話になったのだと思います。この辺は、他  
にもご意見を伺っておいた方が良く思うのですがどうでしょうか。

委員：今おっしゃっていることで私は良いと思います。特別、無視されるというのは一番困るので  
すけれども、時代区分で、縄文がありました、続縄文、擦文がありましたと。それがいきなり  
明治になってしまうと、7、8百年はどうしたのという話になりますけれども、それが  
ちゃんとこういう具合に今回入っているわけですから、これはこれとして素晴らしいご意見  
として、今後、それこそピリカコタン等で活かすべきだと、そう思います。

座長：ありがとうございます。今のがこの部分についての委員会の考えということで良いと思  
います。今、ざっと見てまいりましたけれども、このような形で欠席された委員のご意見はこ  
の会に反映されたとみなしてよろしいでしょうか。それでは、今の意見も踏まえた上で、他  
に基本計画についてご意見はございますか。ちょっと私、気になっているのですが、前回ま  
で、これはカラーで示されていたと思うのですが、今回、白黒なのですけれども、印刷はカ  
ラーではないのですか。この色がもう頭に染みついている。

事務局：今回の最終的な印刷版についてはモノクロでと考えてございましたが、ホームページ上での  
公開版についてはカラーを考えております。ただ、実際に配布する印刷版も、やはりカラー  
でないと、ということであれば検討させていただきたいと思っております。

座長：他の委員さんの意見もあると思いますが、今、白黒でこういったものを提案するというの  
は、私は非常に何か寂しい気がするのですよね。確かに予算はかかりますけれども、やは  
り、これだけの基本計画のものを作って、何か色を抜いたものというのは、ちょっと寂しい  
気がするのですがいかがですか。これはあくまでも要望でしかないと思うのですけれども。

委員：もし白黒で刷るのでしたら、この配色はないですよ。そこら辺も統一されないので。

座長：中も、色がわからないと、順番とか何からみんな色が付いていましたものね。結局、イン  
ターネットで見られない方もいるし、これだけを見る方もいるので、座長としてはカラーに  
していただければと思っております。

委員：この埋蔵文化財展示室更新の市民への宣伝といいますか、どれだけ、どういう形で一般市民  
の人に存在をアピールするかというのはどういうふうを考えてらっしゃるのかなと思って。

座 長：PRということですね。こういう基本計画ができたよという。

委 員：というか、リニューアルされるのだよということをどうやって知らせ、また来てねと、リピーターを作っていくかということは、どういうふうを考えてらっしゃるのかなと思ひまして、ちょっとお聞きしたい。

事務局：基本的には「広報さっぽろ」が主体になると思います。全市版で各家庭に配られるものですから。そこでどういう形を出すかにつきましては、今後、検討する必要がありますが、基本は「広報さっぽろ」で案内するほか、ホームページに掲載することで考えてございます。

委 員：ということは、いつも載っている広報の、ちょっと、こういう欄のところにリニューアルされましたという形が出るだけですね。何かイベントとか、開館に何かを当てて人を集めるとか、何か、花火を打ち上げるような形はしないのですか。

事務局：関係部署とはその辺の話はまだしていないのですが、「広報さっぽろ」での特集のような形で、見開きのページを組むということも可能かとは思っていますので、それをやるかどうかは別にして、そういう手法もあるというふうに考えています。

委 員：是非やってください、折角だから。

座 長：是非、よろしくお願いします。

委 員：今のお話と関連するのですけれども、埋蔵文化財センターの駐車場が非常に狭いということをよく言われるのです。この委員会だとか、うちの会議でも、あそこはいつも土日は全然入れないものねというようなことを言われるのですよね。さとらんどなんかは広くて駐車場はあるけれども、逆にお年寄りの人たちは車がないから、今度はバスの便が悪いとあそこは言われるのですよね。まあ、さとらんどは、今は関係がないけれども。埋蔵文化財センターの方は、図書館があって、学生さんとかがたくさん来てすごいものだけれども、車がもう土日になったら全然入れなくて違法駐車しているのだと。そういうのがだから、少し考えたらどうなのかなと思う。関連だから、ちょっと同じように、意見として。あまり駐車場がないのですってね、あの辺。民間の駐車場は、町中ならたくさんあるのですけれどもね。それをちょっと。

座 長：それでは、ここで5分くらい休憩をいれますので、事務局は次の準備をお願いします。

#### (休 憩)

座 長：それでは、次に事務局からプロジェクターで各展示物を少し見せていただけるということで、よろしくお願いします。

事務局：最初に、お配りした資料4ですが、前回は一覧表をお配りしましたが、一部間違いがございまして、再度お配りさせていただきました。2番のS256遺跡ですが、前回まではS267遺跡となっております、単純な間違いで、S256遺跡が正しい遺跡名になります。それから、所在地についてですが、遺跡範囲の全住所を書いていたものを、出土地点で整理し直してございますので、改めてお示しさせていただきました。それでは、資料の写真を見ながら紹介させていただきたいと思ひます。

まずは、委員会の中でも遺跡の場所が中々わからないというお話もありましたけれども、今回、資料4にお示しした15遺跡をプロットした位置図を作りました。ドットは、時代ごとに色分けしております、旧石器が黄色、縄文が赤、続縄文が青、擦文が紫、アイヌ文化

期が緑になります。これを見ていただくと、市内の広い範囲にばらけて遺跡が位置しておりまして、時期ごとにある程度その特徴をつかめるような分布になっています。縄文は南東部の台地上にあるほか、沖積地や砂丘上にあるものもピックアップしています。続縄文に関しては、市内の中心部と少し北の方にあるもの。それから、擦文については中心部で、かなり豊富な資料が出ている遺跡をピックアップしています。アイヌ文化期については、K 5 1 8 遺跡と篠路の遺跡ということになります。このあと個別に見ていきたいと思いますが、まずは旧石器のS 3 5 4 遺跡です。場所は、白石区の本通1丁目です。こちらが環状通で、こちらが1 2号線という位置関係です。昭和5 5年の発掘調査となります。こちらが出土した石器になります。これを細石刃核としていますが、一応、旧石器の資料ということで、今も展示しているものです。こちらが錐形石器ということになります。旧石器については以上です。写真は持ってきていませんが、この他に数点、旧石器としている資料がございます。次はS 2 5 6 遺跡です。これは縄文の遺跡で、上野幌にあります。早期の資料としてはこういうものになります。これも調査が古くて、昭和4 9年の発掘なのですが、復元も石こうを使っていて、色を塗っていたり塗らなかつたりという、ちょっと見栄えが悪いのですが、展示できるような復元された資料というのは、そんなに多くはありません。幾つかは、この他にもピックアップできるものは、あることはあるのですが、完形に近い形で復元できているものはそれほど多くはないですね。次が縄文の前期でT 3 1 0 遺跡です。これは、今も展示しているものなのですが、前期に関しては、復元できている個体はこれしかない状況ですので、ちょっと、これ以外にというのはなかなか難しい。それから、中期にいきますと、T 7 1 遺跡です。これが平成5年発掘のもので、平岸1条1 9丁目、天神山のすぐ南西側の麓にあります。中期の土器にはこういったものがあります。それから、もうひとつ、C 4 2 4 遺跡も縄文中期、ここでは擦文も出ているのですが、主体となる資料として中期のものを見せたいということです。場所は中央卸売市場のところで、平成1 3年に発掘しています。それから、次は縄文の後・晩期です。ここはN 3 0 遺跡、平成7、8年の発掘調査です。ここは、縄文後期の資料についても晩期の資料についてもかなり豊富な土器が出ています。そのうち幾つかをピックアップして写真に撮ってきました。これは後期の、手稲式のものがかかなり豊富に出ています。こちらも後期の資料になります。これが後期後葉で、若干新しい時期の資料。こちらは、資料数としては、ちょっと少ないですね。こちらが晩期末の資料です。こちらはかなり、量的にも種類のにも充実した資料になります。これも晩期の資料になります。こちらは石器です。石器は、それこそたくさんありますので、テーマを考えてといひますか、色々ピックアップして展示することが可能かというふうに考えております。これは、後期の石器ですが、一部にアスファルトとともに植物質の痕跡が残っているような、こういった資料も見つかっています。こちらは土偶の出土状況になります。土偶は、出土状況の写真パネルとか、そういったものも含めて展示構成を考えていきたいと思っております。これはアップの写真ですね。これが土偶の下にあった土坑の写真ですが、このあたりに土偶がありました。坑底では、こういったサメの歯なんかも出ています。これがその写真になります。次に、続縄文に入りまして、H 3 7 遺跡です。栄町、丘珠空港のところになります。これが続縄文の前半の土器です。ここでは竪穴住居が何軒か出ておりまして、今お見せしている写真は竪穴以外の発掘区から出土している土器になります。こちらが竪穴住居内から出ている土器になります。それから、ここでは熊をモチーフにしたと見られる、いわゆる、動物意匠が付いた資料も出ていて、これも、今まで展示には出していなかったのですが、こういったものも展示に出していきたいなというふうに考えています。次は、N 2 9

5遺跡です。これは手稲区の、今の前田公園のところにある遺跡です。これも発掘はちょっと古いですが、昭和59年、60年の調査になります。これが続縄文前半の資料ということになります。こちらは石器。こちらが、現在も展示している資料になるのですが、土坑の副葬品ですね。一括資料として一つの土坑からこれだけのものが出てきましたということで、リニューアルのときにも活用する形でお示しできればなというふうに思っております。次は、K135遺跡です。続縄文の後半期になります。これが当時の発掘現場の写真になります。これも昭和59年、60年と、ちょっと古い調査になります。K135の土器は、今も展示しているのですが、量的にも比較的充実している遺跡になります。これが、現在、展示している状態の写真です。この辺は、委員の皆さんにも展示室を見ていただいているのでわかると思いますが、この部分は弥生系の土器をまとめて展示しているところになります。こちらもそうですね。弥生展示ということで、それから、オホーツク文化が話題にも出ましたけれども、こういった部分も何らかの形で展示していくこともあろうかと思っております。これは、動植物遺存体ですね。こちらは骨角器。これも何らかの形で展示していければなというふうに考えています。ここから擦文になります。これは、C504遺跡で、JR桑園駅のジャスコの向かい側になります。こちらがジャスコですね。ここはマンションの建設で狭い範囲での調査でしたが、竪穴住居が非常に良い状態で見つかったところなんです。8~9世紀くらいのもことになります。出土している土器はこういったものになります。ここでは、土製の勾玉ですとか、土玉なども出てますね。次がK39遺跡で、これは北海道大学の中にある遺跡になります。遺跡の位置ですが、環状通のエルクトンネルを作ったときの発掘調査ということになります。平成8年から平成11年にかけて調査をしております。この写真は、平成11年ですね。最後の年に撮った写真になりますが、こちらは北大の遺跡保存庭園です。中央が北大で、こちらが藻岩山になります。これは平成10年の発掘の状況です。こちらにサクシュコトニ川の一部が出てきまして、その自然堤防上に竪穴がびっちり並んでいるような状態でした。こちらは、擦文期だけで6時期の文化層が重なっているところにして、古いところから新しいところまで、土器や木製品など非常に充実した資料が出土しています。これは9世紀後半頃、この遺跡では一番古手の土器になります。量的にも多いので、代表的なものをピックアップして写真を撮っております。これも9世紀後半です。須恵器の蓋ですね。こちらが、1段階新しくなって、9世紀~10世紀前半にかけての擦文期の土器ということになります。これは、もうひとつ新しくなって、10世紀中葉の土器です。いわゆるB-Tmの直上の土器群です。ちょっと余談ですが、これなんかは、比較的狭い範囲である程度まとまって出ていて復元されているもので、これを見ると、これは二重口縁になって非常に珍しい土器でもあるのですが、サイズはみんな違う、でも、器形的にも文様のにも、全くと言っていいほど同じ構成なんですね。これなんかは、多分、同一人物が作ったんだろうと個人的には思っているのですが、こういったものも企画展なんかで、テーマ展示ができれば面白いなと思っております。これは、11世紀の前半の土器群になります。これも結構豊富な土器が出ていますので、その一部のことをピックアップしております。これがもうちょっと新しく、11世紀後半から12世紀ぐらいの土器ですね。これが一番新しい部類の土器です。この時期に関しては、資料としては少ないですね。土器自体の数も減ってくる時期だとは思いますが、この遺跡でも、竪穴住居も少ないのですけれども、土器自体もだんだん減ってくるという状況です。それから、ここでは木製品もたくさん出ています。こちらは河川の調査状況の写真です。これが杭列の写真になります。これも9世紀~10世紀前半くらいのもになります。こちらは、今も展示していますが、シンボル展示として象徴的

に展示したいと紹介している丸木舟の舳先です。出土状況の写真になります。これは、かんじきです。これが草履の写真になります。これらも、今も実物を展示しております。これも、現在展示しているものですが、堅杵ですね。こういった木製品は、出そうと思うと、かなりサイズが大きいものが多いので、スペースの問題もありまして、展示の方法なんかは考えていく必要はあるかと思いますが、こういったものもできる限り展示していきたいと思っております。それから、K36遺跡です。これも擦文の終わり頃で、こちらが漆器になります。あまり残りが良くないと言っているのは、こういった状態だということでございます。これは、堅穴住居から出土しているものです。これももう、木体がなくなっていて、塗膜の部分だけ残っているものを復元し保存処理をしているものになります。こちらは、同じ堅穴住居から出ているのですが、環状の錫製品になります。こういったものは、展示していきたいと考えてございます。それから、アイヌ文化期です。K499遺跡の出土品です。こちらが刀です。これもそうですね。K499遺跡は、住所で言うと篠路1・2条10丁目になります。比較的まとまった資料が出ているのがK501遺跡になりまして、住所だと篠路2条9丁目になります。これは、調査当時の写真ですが、擦文の堅穴が見えています。この上からアイヌ文化期のものが見つかっているということになります。これは平成7年の調査です。こういった形で遺構から出土しています。これが金属製品です。刀ですね。これは、刀子の類いになります。これは鉞ですね。それから小札、こういった状態になります。こちらは、釣り針ですとか釘の類いになります。こちらは鉄鍋です。鉄鍋も、個体としては幾つかあるのですが、比較的きれいに復元できているのはそれほどございませぬ。これは、いずれもサイズが大きくて、全て個別にケースを作っているのですが、これにアクリル製のカバーが付く形になるのですが、これをケースごと展示するとかなりスペースをとってしまうので、今の展示スペースと、遺物の量と、どういうふうに見せていくかということをやっと考えていかなければいけないというふうを考えています。ほとんどは、こういった状態の良くないものということになります。前回、漆器がどのようなものかという話も出ていたけれども、こういうものです。これは比較的状態が良い方ですね、まだ模様が見えるので。これも木体は無く、塗膜のみが残っていたという状況です。あるいは、こういったぼろぼろの状態になっているものを、無理に繋ぎ合わせているようなものになってしまいます。これについては、展示するかどうかというのは、実際に設計を進めていく中で検討していきたいというふうに考えています。こちらは陶磁器です。白磁と瀬戸美濃ですね。こういった資料なんかも出ています。最後になりますが、K518遺跡。これは、北25条西11丁目の札幌北高校の敷地内、これが全体の写真です。これは合成写真ですが、こちらから陸上グラウンド、サッカー場、野球場となっているのですが、平成14年から平成22年まで調査をしました。こちらは縄文の中期、それから続縄文、擦文もあるのですが、アイヌ文化期のお墓も出ました。このあたりですかね、見つかっています。これが、その調査状況です。ここに鉄鍋があって、ここに刀があるという状況です。これがその資料になります。保存処理をしているのですが、鉄鍋はこういった状況で非常に遣りが悪かったですね。これも、保管ケースを作っていますので、これも展示をしようと思えばできる状態ではあります。本当に遺物の写真しかお見せできずに申し訳ございませんが、以上で終わります。

座長：どうもありがとうございました。実際に展示の予定とされているものなどを見せていただきました。こういったものを確認しながら、検討委員会としてのご意見を、最後になりますので、ちょっとお聞きしたいと思いますが、今までのところで何かございませぬでしょうか。私たちの委員会の仕事は、基本計画の策定までということ、これが具体的にどういふ

に並んでいくかということが楽しみな訳なのですけれども、なるべくいいものを作っていたければと思います。何か、各委員さんから、これからの希望でも何でも結構ですので、ございませんか。

委員：細かいことですが、資料4ですけれども、主な遺構のところに「土壙」という字があるのですけれども、私も30年前にこの字を使っていたのですけれども、市の埋文ではずっとこれをお使いになっているのですか。

事務局：基本的にこの字は使っていないです。報告書でもこの字は全然使っていないので。

委員：そうなのですか。わかりました。それなら。

座長：他に何かございませんか。よろしいですか。それでは、これまで委員会で検討いたしましたものをまとめて、最終的に基本計画を整理していただければと思います。

本委員会では、座長を務めさせていただきましたけれども、皆さん方の協力をいただき、まとめの下手な座長で大変申し訳ございませんでした。これから事務局の方で策定にかかりますので、またよろしくお願ひしたいと思います。委員の皆さん、どうもありがとうございました。最後の仕事ですが、議事録の署名ですけれども、順番からいきますと、小杉委員と古原委員になりますので、よろしくお願ひいたします。では、これで委員会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

#### 事務連絡 今後のスケジュールについて

事務局：お疲れさまでした。最後になりますけれども、事務局の方から、平成25年度、来年度以降の大まかなスケジュールに関してだけ簡単にご説明させていただきたいと思います。本事業の全体スケジュールにつきましては、委員会の最初にご説明を申し上げたところでもございますけれども、平成25年度は、前半で更新に向けた入札等の準備の作業を行い、実施設計等を進めていく予定で考えております。更新作業に関しましては、現状では年明け、平成26年度の1月～3月くらいを目途に行いたいと考えておりました、平成26年4月を目標にリニューアルを目指したいというふうに考えてございます。先生方には、今後も折に触れていろいろご相談をさせていただきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。以上でございます。

### 3. 閉 会

#### 事務連絡

会議の議事録は、札幌市文化財保護審議会の公開に関する取扱要領に準じて作成し、座長が指名する委員2名の署名により承認する。

今回を持って平成24年度の埋蔵文化財展示室更新検討委員会が終了となることから、本委員会の主催者である文化部長より挨拶があった。

以上を持って、平成24年度第4回埋蔵文化財展示室更新検討委員会を閉会とし、「基本計画」の最終承認については、第4回委員会の結果に基づいて座長・副座長と修正を加え、座長に一任することとして、同委員会を終了した。

この会議要旨は、事実と相違ないことを証明いたします。

平成25年 5月 17日

埋蔵文化財展示室更新検討委員会委員

署名人 小杉 康

署名人 古原 敏弘